

## 日本昆虫科学連合2014年度総会議事録

日時：2014年7月26日（土）11:00～12:00

場所：日本学術会議 5階 5-C(1) 会議室（東京都港区六本木 7-22-34）

出席者：日本昆虫科学連合参加学協会（23名、委任状提出者8名、その他運営委員4名）、日本学術会議応用昆虫学分科会委員（5名、連合兼任1名含む）

### 議事

#### 1. 2013年度事業報告

下記の4件が報告された。

- (1) 総会およびシンポジウムを開催した〔2013年7月20日（土）、九州大学箱崎キャンパス〕。
- (2) 「日本版 NIH 構想に対する要望」を、日本昆虫科学連合代表・藤崎憲治ならびに構成団体16学協会の連名で、内閣府政策統括官（科学技術政策担当）および文部科学省に提出した（2013年9月11日）。
- (3) 第10回幼若ホルモン国際会議（10th International Conference on Juvenile Hormones、2014年6月9日～13日、つくば市）の協賛ならびに第14回国際ダニ会議（XIV International Congress of Acarology、2014年7月14日～18日、京都市）の後援の依頼を受け、役員会で協議の結果、いずれも承認した。
- (4) 役員会を開催し〔2014年5月17日（土）、京都大学農学部〕、ICE2016にて日本昆虫科学連合主催のサテライトシンポジウムを開催することを決定した。また、啓蒙的普及書の出版について協議し、2014年中の出版予定で進めている。

#### 2. 2013年度決算について

2013年度の決算と監査報告が行われ、承認された。

#### 3. 2014年度事業案および予算案について

- (1) 2014年度の予算案の説明が行われ、承認された。  
下記の2014年度の事業案が提案され、承認された。
- (2) 2014年度総会および公開シンポジウム「昆虫における刺激の受容とその反応」を開催する〔2014年7月26日（土）、日本学術会議〕。

- (3) 昆虫科学に関する啓蒙的普及書「昆虫科学読本一虫の目で見た驚きの世界」を東海大学出版会から刊行する。
- (4) シンポジウム運営委員会により、2015 年度シンポジウムの企画および準備を進める。

#### 4. 今後の活動計画について

- (1) 第25 回国際昆虫学会議 (2016 XXV International Congress of Entomology、以下ICE2016) について

- ・ 2016 年 9 月 25 日から 30 日にかけてフロリダ州オーランドにて ICE2016が開催される。ICE2016 Organizing Committee Co-Chairs の一人 Walter S. Leal博士から依頼があり、9 月 25 日の午後 (13:00~18:00 予定) に日本昆虫科学連合主催のサテライトシンポジウムを開催する。
- ・ ICE2016 でのシンポジウムを募集している。積極的な提案を検討してほしい。締切は、2015 年 3 月 2 日。詳細は、<http://ice2016orlando.org/>を参照のこと。

#### 5. 次期代表および役員を選出

- ・ 次期役員選考委員会を設置し、藤崎代表を選考委員長に任命した。
- ・ 次期代表候補者の推薦を所属団体に依頼したところ、7 つの学協会から合計 5名の推薦があった。次期役員選考委員会で協議の結果、多田内修氏 (九州大学)を次期代表候補者として推薦することに決定した。
- ・ 本総会で藤崎選考委員長により選考経過が報告され、承認され、多田内次期代表により挨拶があった。続いて、次期役員および運営委員候補者が提案され、承認された。

#### 6. その他

ABS問題に対して昆虫科学連合として何らかの対応をすべきではとの意見があり、今後検討し対応していくことになった。